



■第5回トキ放鳥に向けて訓練開始

6月22日(水)に、佐渡トキ保護センター野生復帰ステーションの順化ケージにおいて、2011年秋の第5回目トキ放鳥に向けて順化訓練を開始しました。

訓練を開始する個体は、オス11羽、メス9羽の合計20羽で、そのうち4羽にGPS送信器を装着しました。順化ケージに移動したトキは、飛翔や採餌等の能力を身につけるため、3か月程度の訓練期間を経て、9月下旬から10月上旬にかけて放鳥される予定です。

放鳥の具体的な日時は訓練状況等を踏まえ今後検討されます。

■放鳥トキの繁殖状況

佐渡島内において、今年は7組のペアが形成され、営巣・抱卵をするなどし、自然下で35年ぶりとなるヒナ誕生に期待が寄せられました。これまでにヒナのふ化が確認されることはなく、今期の繁殖行動は終了しました。

◆市役所農林水産課 生物多様性推進室トキ政策係(第2庁舎)
☎63-3761

飼育トキの繁殖状況

6月17日現在、国内で飼育されているトキが今年産卵した卵の数は、155個です。6月10日以降、新たな産卵はありませんでした。

【飼育場所と繁殖状況】

- ・野生復帰ステーション繁殖ケージ
6ペア(全ペアが産卵) 産卵数40個
- ・佐渡トキ保護センター
11ペア(全ペアが産卵) 産卵数71個
- ・多摩動物公園
4ペア(うち3ペアが産卵) 産卵数13個
- ・いしかわ動物園
2ペア(全ペアが産卵) 産卵数16個
- ・出雲市分散飼育センター
2ペア(全ペアが産卵) 産卵数15個

155個の卵のうち、53羽はふ化(うち4羽死亡)し、親鳥が巣内で抱卵中が2個、フ卵器で保温中が3個、無精卵が37個、破卵が47個、発育中止卵が13個ありました。

佐渡金銀山絵巻をひも解く(1)

佐渡金銀山絵巻は、佐渡奉行萩原美雅が在任した享保17年(1732)から元文元年(1736)に描かれたはじめたといわれています。それ以後、佐渡奉行や組頭(佐渡奉行の補佐役)の交代のたびごとに佐渡奉行所の絵図師が作成するのが恒例となつたようです。このような経緯で描かれた絵巻は、さまざまな機会に模写されたこともあつて、国内外に100本以上の所在が確認されています。

江戸時代中期から末期まで百数十年にわたって描かれた佐渡金銀山絵巻は、同じ内容で描き継がれたのではなく、鉱石の採掘・製錬・小判製造などの基本構成をそのままにしながら、部分的に修正が加えられ、その時どきの新技術の導入や経営・管理体制の変化などが反映されています。

年代の異なる複数の絵巻を比較することで、江戸時代の佐渡金銀山の様子を分かりやすく知ることができます。

◆市役所世界遺産推進課(金井コミュニティセンター内) ☎63-5136



【銀山勝場稼方諸図(部分)】

佐渡奉行所絵図師石井夏海(1783~1848)により筆写されたもの。釜ノ口(入口)に始まり、坑内・坑外の様々な作業が描かれている(佐渡市教育委員会蔵)。